

桑名市議会議長
渡邊 清司 様

第3班 班長
大橋 博二 印

議会報告会実施結果報告書

開催日時	平成27年4月24日(金) 18時30分～20時18分		
開催場所	長島町総合支所 2階大会議室		
出席議員	班長	大橋 博二	
	司会	渡邊 清司	記録者 愛敬重之
	富田 薫	畑 紀子	伊藤 恵一
参加人数	17人		
議会報告の概要	1. 開会 2. 挨拶・自己紹介 3. 報告・説明 (1)平成26年12月定例会の概要及び議決結果報告 (2)平成27年3月定例会の概要及び議決結果報告 (3)平成27年度当初予算の特徴・事業概要・内訳の説明 4. 上記報告・説明に対する質疑応答 5. 意見交換(議会運営や議会活動、市政に関する意見や提言) 6. 閉会		
主な意見・要望	【質問事項】 ・平成27年3月定例会の概要 新病院整備事業関係費について 桑名駅西土地区画整理事業費について 土地開発公社の保有土地の買戻し事業費について 語学指導員経費について 防災・減災対策計画等策定事業費について 市民税について 【意見・要望】 別紙のとおり		
備考			

議会報告会記録

【第3班】

(1 / 6)

開催日時	平成27年4月24日(金) 18時00分 ~ 20時18分	
開催場所	長島町総合支所2階 大会議室	
参加人数	17人	
議会報告に対する質疑応答	質 問	回 答
	1. 命を守ることが最優先	
	◎新病院整備事業について	
	・新病院の建設予定額はいくらになったのか。	・総額174億6,000万円だが現在入札不調が続いており、前回の入札より建築工事関係、電気設備工事関係、機械設備工事関係の分離発注に切り替えたところ、入札参加者は現れた。しかし、3工種とも入札不調となった経緯がある。現在、できるだけ予算の範囲内で完成できるよう設計変更や、設備変更等について入札参加者と協議している段階と聞いている。
	・新病院は災害拠点病院として成り立つのか。	・1階と2階を駐車場にするなど浸水対策を図るなどしており、災害拠点病院としてなりうる。
	◎防災・減災対策計画等策定事業費について	
	・総合医療センターで174億6,000万円や防災拠点を19億円をかけて星見ヶ丘につくるとあった。説明によれば、災害が落ち着いてからの避難所とのことだが伊曾島地区では南海トラフなど大地震が発生し津波が堤防を越えた時、どこにまず避難するのか。	・平成27年度では長島地区で防災関係の事業が予算化されている。
	伊曾島小学校だけの避難場所では4,000人が避難でき	①昨年に続き東名阪自動車道の法面の避難場所6カ所の整備 ②同報系防災行政無線のデジタル化に向けて整備するための調査・整備計画の策定

議会報告に対する質疑応答	るのか。土地開発公社の失敗や病院整備での予算等を避難タワーなどの予算に充てるべきではないか。	③民間指定避難施設（11カ所）の移動系防災行政無線の整備 ④伊曾島漁港改修事業における防災倉庫の設計監理及び工事 ⑤長島公民館のガラス飛散防止フィルム設置工事
	2. 地理的優位性を活かした元気なまち	
	◎桑名駅西土地区画整理事業について	
	・会計の区分は一般会計なのか。当初の事業計画は285億円で、昨年度の段階で約110億円を使っているという。市民にはいろいろな面でしわ寄せが来ていると思うがどう考えるのか。駅西開発について大英断をもって見直してほしい。長島町の在住者にはあまり理解できない事業である。	・一般会計で行っているが、これからの建物移転補償費については、平成26～36年までで約129億円。年度計画や合併特例債も入っており粛々と事業を進めているので理解してほしい。
	3. 世界に向けて開かれたまち	
	◎語学指導員経費について	
	・何人分の経費なのか	・人数は把握していないので、後ほどお知らせする。 【補足】 ALT外国人語学指導員は4人。
	4. 平成27年度一般会計当初予算について	
	◎土地開発公社について	
	・公社保有土地の買戻し及び事業化26億3,000万円とのことだが、これはどういうことか。	・土地開発公社を解散するに当たって、その保有する土地を買い戻すなどの費用で、その内訳は公園の約5億7,700万円、星見ヶ丘防災拠点施設の約19億4,300万円である。
	◎防災拠点について	
	・防災拠点というのは新規につくるのか。	・広域防災避難訓練で広域避難した際、星見ヶ丘小学校だけで

参加者からの 意見・要望等	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習推進事業については、長島生涯学習課がなくなったのは推進ではなく縮小であるように思える。
	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設マネジメント推進事業でも長島の市営駐車場を何年間も放置状態なのに、これは一体何なのか疑問が残る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・知恵がある者は知恵を出す。知恵のない者は汗をかけ。いろいろな事業があるが、職員はコンサルタントに出すことしかできないのか。自分たちで考える知恵があると思う。人も物も市民の為にすべて開放するような大きな方向性を持った職員や議員であってほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・財政状態が悪いのであれば星見ヶ丘の防災拠点などを売却する等、歳入を増やす努力はしているのか。四日市市や東員町では歳入を増やす努力を実施しており、特に東員町では200区画、町の住民を増やすと聞いている。議会として執行部に対して言っていたきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回も要望したはずだが、報告会での議員の自己紹介のプリントがほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・持ってきた資料に対する質問にはすぐに答弁できるようにしてほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・長島地域では特に水害に関して対策を打ってもらったら文句も出ないが、そこがしっかりしていないと、何億というお金が動く駅西開発が本当に役に立つのかとなる。過去から決まっていたことであっても人口の構成やまちづくりも変わっている中で、見直しを議会から積極果敢に提案していただきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・5月中旬に第6回となる市民安全部と伊曾島地区の避難施設に関する意見交換会が開催される。この意見交換会は平成25年7月22日から実施しており、今回は、平成24年度に作成された防災マニュアルを3月に改訂することなのでその確認と、伊曾島地区にどんな避難施設が要るかを第6回意見交換会で提示する。県北部海拔ゼロメートル地帯対策協議会での検討の経緯も市民安全部から報告してもらえるようになっている。避難施設については、国、県も補助をすると言っているのに、市が予算を出せないのでは話が進まないようだが。
	<ul style="list-style-type: none"> ・1市2町合併の際の約束では北部・中部・伊曾島地区に防災センターをつくることとなっていた。中部は防災コミュニティセンターができたが、あと2カ所はできていない。東日本大震災以降、地震・津波に関して住民は危機感を感じており、この件に関しては地域審議会でも何度も議題に挙げている。橋も地震が来た時に使えるか、液状化の事もあり伊曾島地区の方々が東名阪自動車道の法面まで避難できるのか、長島町に高い避難施設がないと困る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・合併後の市民サービスの低下もひどすぎる。住民に合併して良かったと言ってもらえるために行政の方は何ができるのか。市民の意見を聞いて議会・行政に反映するとの挨拶であった。例えば補助金の問題で言えば50年以上続いている長島町体育大会だが、平成26年度に2割カットされた。他の補助金も一律にカットされたので理解をし、種目を削減しながら実施したが、平成27年度に関しては平成26年度の半分になり、開催するなど言っているようなものだ。全地域から参加があり、交流の場として非常に重要であることから中止はできない。多度町は平成27年度体育大会を開催

参加者からの 意見・要望等	<p>しないと聞いている。長島町では開催したい。6月定例会では補正予算で体育大会の予算を計上してほしい。生涯学習推進事業費412万4,000円も計上するなら、なぜ体育大会に充ててくれないのか。</p>
	<p>・B&G体育館については災害が発生したときの遺体収容所となるが、現状は天井が落下し利用が出来ない状態である。今年度予算が計上されなかった。財団法人には、7月には申請してもらい来年度予算を計上してもらいたい。6割が財団から出ると聞いている。B&Gは様々なクラブ活動の場でもあるが現在は他の地域に行ったりして実施しており、公民館など、長島の施設で代替えして実施した場合に2,800円が掛かる。このような特殊な事情なので会議室料金程度で利用できるように検討してほしい。</p>
	<p>→ 本年度予算申請で間に合わなかったので、平成28年度に申請すると聞いている。旧市内の方も4割から5割利用している実績があることから不便さは理解している。使用料については要望として承る。</p>
	<p>・東員町や木曾岬町なみの収納率に上げる事も大切かと思う。収納率については98%を目指してほしい。</p>
	<p>・起債残高としては、平成26年度末から平成27年度末にかけてどのような姿になるのか聞きたい。</p>
	<p>・地域の活動「まめじゃ会」が非常に活発ですが、簡単な旅行を実施しようと思って市のバスを借りようとしてみたが自治会活動は市の行事ではないので断られた。長島駅付近の市営駐車場だった所を民間業者に運営してもらったら少しでもお金が入ってくるのにいまだに何もしていない。持っているものは有効活用すべき。現状の様々な施設は税金で建てられたもの。もっと規制緩和等考えてもらい市民の健康・防災等、施設の目的外使用についてもっと推進してほしい。私たちと行政との基本的なスタンスがずれているのではないか。</p>
	<p>・桑名市地域防災計画に実効性はあるのか。県教育委員会の「三重県学校における今後の防災対策・防災教育の在り方について」との整合性や、桑名市地域防災計画の改訂に当たって実効性を確保できるのか。</p>
	<p>→ 作成するのが目的ではなく手段であるということを市民安全部に伝える。</p>
	<p>・ふるさと納税における納税者の公表について</p>
	<p>→ 個人情報のあることなので困難かと思う。</p>
	<p>・南海トラフ地震が30年以内に7～8割の割合で発生する。今までの資料や説明では長島では確実に被害が発生し、生き残った人たちだけを助ける避難施設を星見ヶ丘に建設すると聞こえた。</p>
	<p>→ 長島地区海岸高潮対策事業を県が実施中である。津波が到来するまでにはある程度時間があると伺っており、近所同士で助け合いながら避難していただきたい。避難してもらえる場所の確保をした。</p>
	<p>・地域の「共助」については当前だが、弱者を助ける健常者が逃げるところもない。地域性を考えてほしい。</p>

参加者からの 意見・要望等	<p>・今回の星見ヶ丘に建設される防災施設は、水害・水防についての施設である。台風についてはある程度時間や進路が読めるので広域避難という事で市がバス会社と提携して現在、伊曾島地区の住民もバスで避難させられる。しかし、南海トラフの地震対応まで含めて広域避難でまかなえるようにはなっていない。現在堤防の工事を実施しているが全面ではなく、地質調査を行った上で弱い箇所を実施している。液状化で堤防崩落が発生する場合もあるので県が国に要望している。市が前回行ったイベントもスーパー伊勢湾台風を想定したものである。命を守る一時避難場所や、一時避難が完了したら生活できる避難場所について市は区別できていない。</p>
	<p>・平成 26 年 12 月・平成 27 年 3 月の市議会定例会をネットで見た。ある議員が副市長に対し伊曾島地区市民センターを撤廃すべきという質問をしていた。総合支所までの距離を言っていたが不正確であり実際は直線距離 4.7km である。道のりでは約 6 km ある。松蔭地区は約 9 km 以上あると思われる。統廃合を進めるならば、地区市民センター同士で短距離の箇所を含めて市全体で進めてもらいたい。先日、市自治会連合会の理事会が開催され、寄付の話題があった。長島地区は約 1 万 5,000 人、大山田地区は約 3 万人だが、昨年共同募金の実績は大山田地区の 70 万 3,300 円に対し、長島地区は 131 万 1,000 円と非常に協力しているのに議員から調査もせずにあのような発言をされると辛い。議員同士でも注意してほしい。</p>
	<p>→ 地区市民センターについては、伊曾島地区だけということではなく、市全体で市民サービスが低下しないような形で統廃合を検討するという事だと思う。</p>
	<p>・ある時代、ある政党がコンクリートから人へとあったと思うが、南三陸町にボランティアに行っているのだが結果、役に立ったのがコンクリートだった。目の前の話ではコンクリート構造物は役立つ。目的外使用を問わず、とにかく今ある建物の有効活用を考えてもらいたい。若い職員なら考えられると思う。</p>
	<p>・今回は長島での議会報告会である。これまでの話は必ず出る。真摯に受け止めてもらわないと他人事と思われるように感じるので、一度は受け止めてほしい。特に水害については、命にかかわる。伊勢湾台風で一番被害に遭っているのは長島地区だ。体験から来る思いがあるからこそ、防災に関しては熱心な意見要望となるので理解してほしい。</p>
	<p>→ 旧市や多度でも堤防が決壊したら長島同様 5 m の浸水区域もあり、決して他人事ではない。自然災害の危機管理について思いは同じである。</p>